

# まち育て検討部会からの報告

第8回まち育て検討部会（平成25年7月26日開催）

第9回まち育て検討部会（平成25年8月4日開催）

# 第8回まち育て検討部会

日時：平成25年7月26日（金）午後6時半～午後9時20分

場所：国立市役所地下食堂

参加者：（敬称略）

鈴木部会長

市民委員：笠井、五島、中町、赤松、木島、宿谷

他部会委員：篠原会長、新井、関、藤本、篠原、関

一般傍聴者等：菊池、吉田、岩本、榊原、井田、小川、重松、大和

国立市：門倉、佐伯、松平、馬場、和田

udc：護、山崎、深田、吉谷、新堀、下田、関

- 内容：
1. 資料説明等
  2. 質問・意見
  3. ワールドカフェ形式による議論
    - ①高架下整備計画、駅前広場計画について
    - ②まちづくり会議、まち育て検討部会の今後について
  4. 各グループによる成果発表



# 第9回まち育て検討部会

日時：平成25年8月4日（日）午後6時半～午後9時20分

場所：国立市公民館

参加者：（敬称略）

鈴木部会長

市民委員：五島、菱沼、中町、木島、篠原（由）、宿谷

他部会委員：原田、関（堅）、篠原（光）

一般傍聴者等：菊池、吉田、鈴木、重松

国立市：門倉、松平

udc：深田、吉谷

- 内容：
1. 第8回まち育て検討部会の概要報告
  2. 質問・意見
  3. 本日の検討の趣旨説明  
【まち育て検討部会の活動計画をつくる】
    - ①プロジェクトの整理
    - ②プロジェクト毎の計画
  4. 班別の議論
  5. 各班による成果発表・共有



# まち育て検討部会の活動目的

## ①ハードのデザインの前提となるコンセプトをつくる

- 駅前広場、高架下計画を体感する
- 国立まちづくりの歴史を整理する
- 国立駅周辺まちづくりを市民に発信する

## ②ハード完成後に継続的なまちづくりの取り組みをするための仕組みを検討する

- まちづくり活動の組織整備について検討する
- まちづくりの取り組みを拡大するプロジェクトを実現する  
(まちづくり交付金を活用したプロジェクトの実現)

# 高架下空間を体感する

具体的につなぐ！ 実際にやってみよう！ 感じてみよう！  
50年後、100年後のために、国立ツアーを思い出して

【背景】JRとの協議を経て、高架下空間の規模、位置が確定した

【目的・狙い】

まちづくり会議、まち育て検討部会での高架下の空間のあり方に関する提案を、今後の詳細設計に活かし、市民が利用したい高架下空間とするため

【内容】①JRとの協議により確定した範囲を確認する

②まち育て検討部会で提案した計画  
(プラン)を確認する

③JR協議結果を条件とした検討中の計画  
(プラン、高さ)を確認する



【所要時間】2時間程度



平成25年8月31日(土)開催に向けて調整中

# 駅前広場を体感する

具体的につなぐ！ 実際にやってみよう！ 感じてみよう！  
50年後、100年後のために、国立ツアーを思い出して

【背景】駅前広場案の検討は、ほとんどが平面図（プラン）を見ながらの議論だった。

【目的】実際の駅前広場を前に、広さのイメージを持って、より実感を持って議論をしたい。

【内容】JR国立駅1番線ホームから、現在の駅前広場を前に、駅前広場の計画に示される広場が実際にどのくらいになるのか、その規模を、実際の場所で確認する



高架下空間の体感と一体での実施を検討

# 国立まちづくりの歴史を整理する

例えば旧駅舎が復原されても、来街者を「おもてなし」する心があるのか。

ハード整備後のまちづくりに向けて、街への愛着を育てることが必要。

**ハードの前提となるコンセプトには「ハート」が大事**



## **歴史感をぶち破る**

自分の当たり前は他者の当たり前ではない！

（国立の当たり前は他市の当たり前ではない！）

だからもっと語り合い 自分の歴史感・固定観念をぶち破るところから始めよう。



そのうえで

**80年間の国立の歴史に沿って今までを振り返り、何を捨てて、何を未来につなげるのかを考えるべき。**

それが、旧駅舎の復原等まちへの愛着形成につながる。

## 【活動①】国立のまちづくりの歴史を認識する

谷保村・大学町・文教運動・歩道橋問題・しょうがいしゃがあたりまえに暮らすまち宣言・平和宣言・マンション問題 等



## 【活動②】この10年間の駅周辺のまちづくりの歴史を紐解いて、発信する

まちづくり推進協議会・都市計画マスタープラン、赤い三角屋根・商工会議所 etc. が過去に提出したまちづくりに 関する提案など、国立駅周辺まちづくり基本計画（まちづくりの理念：まちと人がつながる、緑と文化のくにたち広場）に至る取り組みを集め、その趣旨を知る

## 【活動③】体験としての歴史を知る。

（歴史は一人一人の体験。生きた声、埋もれた写真に学ぶ。）

昔の国立の街がどんな街だったのかを写真を実際に見て、知ってもらおう。写真展。また、実際に体験した人の話を聞き、国立がどんな街だったのかに興味を持ってもらう。



国立駅 1955(昭和30)年頃

出典: 国立流みんなで作るまちの記録



①②③を通し、「国立をどんな“まち”にしたいのか？」から合意形成を図る。

(例) 昔大学通りで木登りをした

⇒大学通りの緑地帯を拡幅し、遊歩道的に整備しても良い、など、駅周辺をより豊かにする方向で考えられる。

# まちづくり活動の組織整備

まちづくりは継続的な取り組みである。まちづくり会議はハード整備のあり方を中心に議論する場となっているが、事業完了後はそれらの維持・管理や、駅周辺地区におけるソフト活動がまちづくりの中心となる。

## 【役割】

- ① 駅周辺におけるまちづくりに関する取り組み（ソフト）の提案・調整・実施
- ② 駅周辺整備事業により整備された施設の維持・管理（ハードのチェック）

## 【当面の具体のプロジェクト】

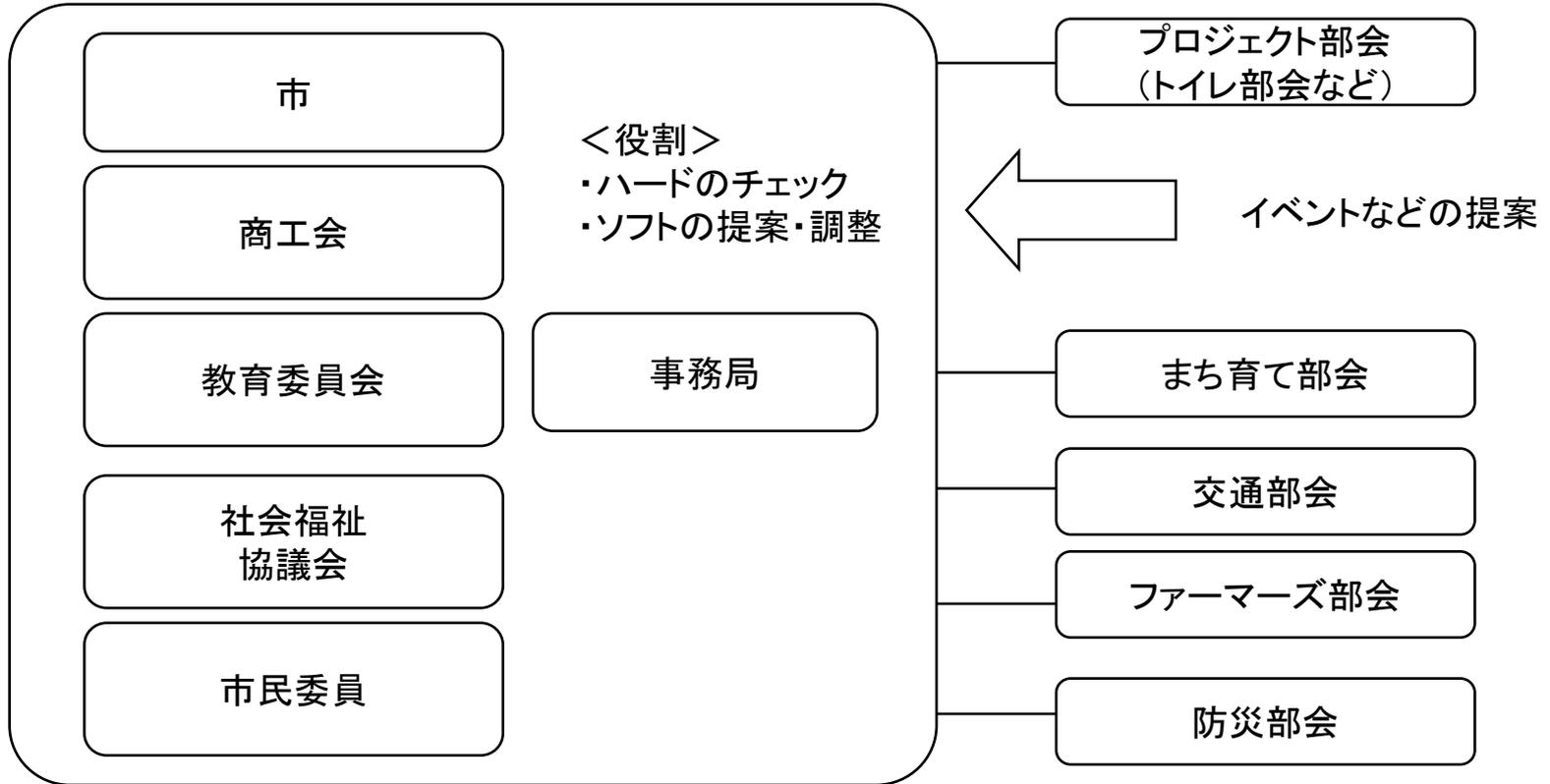
- ① トイレプロジェクト
- ② ベンチプロジェクト組織



**継続的に市民の声を集めてまちづくりに活かす**

# 【体制イメージ】

## まちづくり会議Ⅱ



6ヶ月に1回程度開催

**継続的に市民の声を集めてまちづくりに活かす**

# (参考①) 国立Bench・プロジェクト

街角のベンチはそこにあるだけで人をホッとさせ、安心させる。このエリアには、そんなベンチがちょっと多すぎるくらいあったらいい

ベンチをつくること、座ることを通して、くにたちに暮らす人たちが時代を超えて「つながる」



## デザイン・製作

- ・小学生  
(保護者、教員)
- ・障がい者

## 材料

- ・中央線沿線  
(多摩、山梨)

## 設置空間確保

- ・商業者
- ・行政
- ・市民

## 維持管理

- ・高齢者
- ・障がい者
- ・市民

## 利用

- ・高齢者
- ・子育て世代など
- ・障がい者

## サポート

まちづくり会議委員 デザイナー、コンサルタント、国立市職員

# (参考②) 国立Toilet・プロジェクト

トイレが行き届いている家やレストランは、居心地が良くてまた行きたくなる。それが町なら、そこはいい町に違いない。おもてなしの気持ち満載で安心してゆっくり散策できる町に。

障がい者、高齢者、子育て世代が、安心して外出できるよう、何処に、どのようなトイレがあるのか、駅周辺のトイレ情報の把握・発信と駅周辺のトイレの配置について検討する。

## 1. トイレマップの作成

国立駅周辺まちづくりの範囲（歩行者中心ゾーン）のトイレ（公共、民間）の情報を把握し、発信できるマップを作成する

## 2. 新たに整備されるトイレの配置・機能の検討

高架下、南口公共施設用地、旧駅舎など駅周辺まちづくりの範囲で、新たに整備されるトイレの配置や機能分担について検討する。

3. 気持ちよく使える『皆のトイレ』について考えることは、大切な公共マナーの啓蒙と教育でもある。